

調査速報

道西日本海(檜山海域)スケトウダラ資源調査結果

2011年 11月 8日

北海道立総合研究機構 函館水産試験場 (0138-57-5997)

○2011年10月13日～20日に、調査船金星丸を用いてスケトウダラ資源調査を実施したので、結果をお知らせします。

調査結果速報は、下記の函館水試ホームページからもご覧になれます。

<http://www.fishexp.hro.or.jp/exp/hakodate/>

- スケトウダラ魚群は沖合域に主に分布し、すけとうだら延縄漁場となる沿岸域では少なかった。
- 魚群の分布深度はおよそ 150～500mで、分布の中心は 300～400m であった。
- 計量魚探による魚群反応量は、昨年を下回り、2008年や2009年並みだった。
- 漁場周辺の水温は、乙部沖と上ノ国南沖は昨年並みで、江差沖の水温は 2007～2010年より高かった。奥尻島東沖は 2007～2010年より低かった。

● スケトウダラ魚群の分布

・ 水平分布(図1, 図2)

昨年と同様に、スケトウダラは主に奥尻島の東側の熊石沖、松前小島堆、奥尻島の南側(奥尻海脚)などの主に沖合域に分布が見られ、延縄漁場となる沿岸域(図1の青い円の範囲)では昨年同様、少なかった。

・ 鉛直分布(図3)

スケトウダラの分布は、およそ水深150～500mに見られました。また、分布の中心は概ね水深300～400mに見られました。

● スケトウダラ延縄漁場周辺の水群反応量(図2)

計量魚探による檜山海域全体のスケトウダラの魚群反応量は、昨年(2010年)の約7割で、2008年や2009年並みでした。

● トロールで漁獲したスケトウダラの大きさ(図4)

熊石沖で行ったトロール調査では、2006年級群と思われる尾叉長30cm台後半のスケトウダラが多く漁獲されました。奥尻海脚で実施したトロール調査では熊石沖より大きい40cm台前半のスケトウダラが多く漁獲されました。

● 水温環境(図5)

スケトウダラ延縄漁場周辺の乙部沖、江差沖、上ノ国南沖、奥尻島東沖で水温の観測を行いました。乙部沖と上ノ国南沖の今年の水温は昨年(2010年)並みで2009年より高くなっていました。江差沖の水深100～400mの水温は2007～2010年より高くなっていました。

また奥尻島東沖の水温は2007～2010年より低くなっていました。

● 漁況の見通し

計量魚探調査において魚群反応量が昨年より少なかったため、漁獲量は昨年を下回ると予想されます。

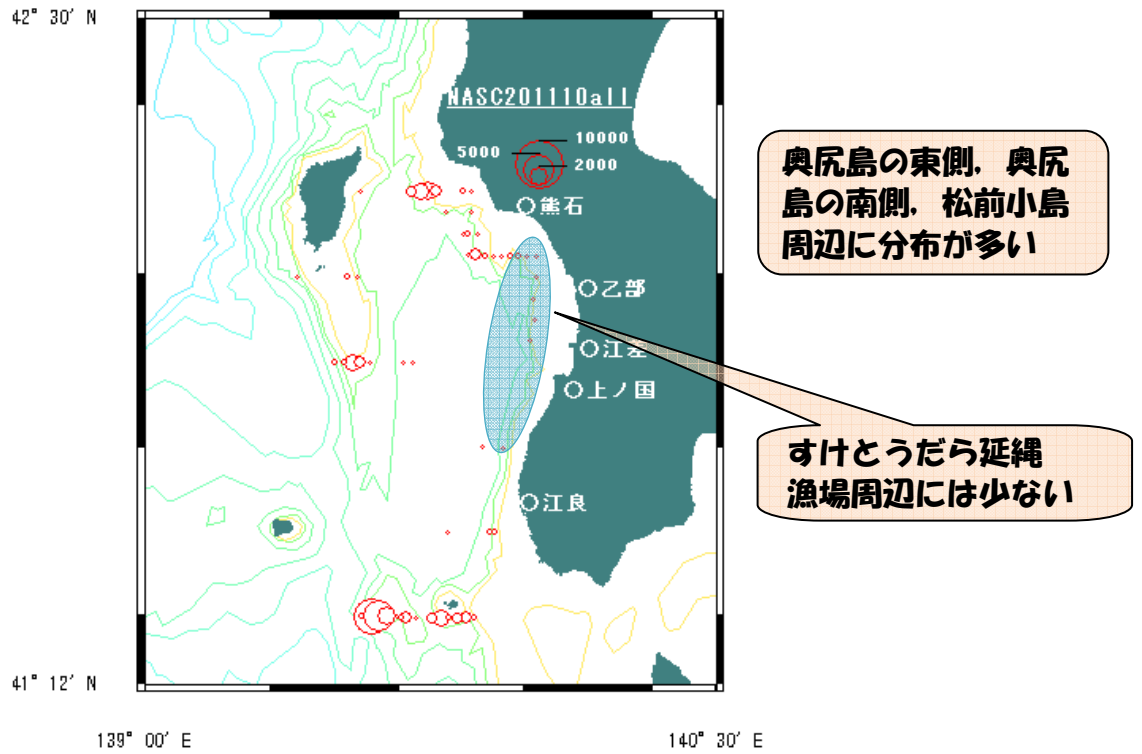


図1 調査海域全体の魚群の水平分布(平成23年10月)

○の大きさが魚群反応量 (S_A) を示す

■ : すけとうだら延縄漁場

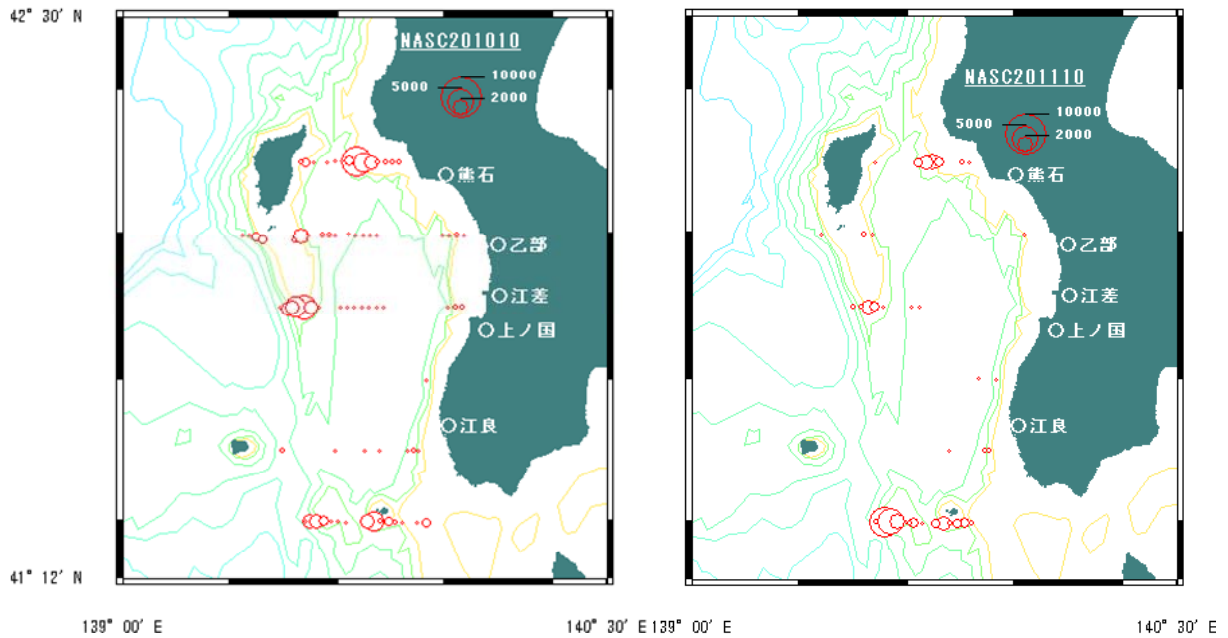


図2 魚群の水平分布の比較(左:平成22年10月, 右:平成23年10月)

○の大きさが魚群反応量を示す

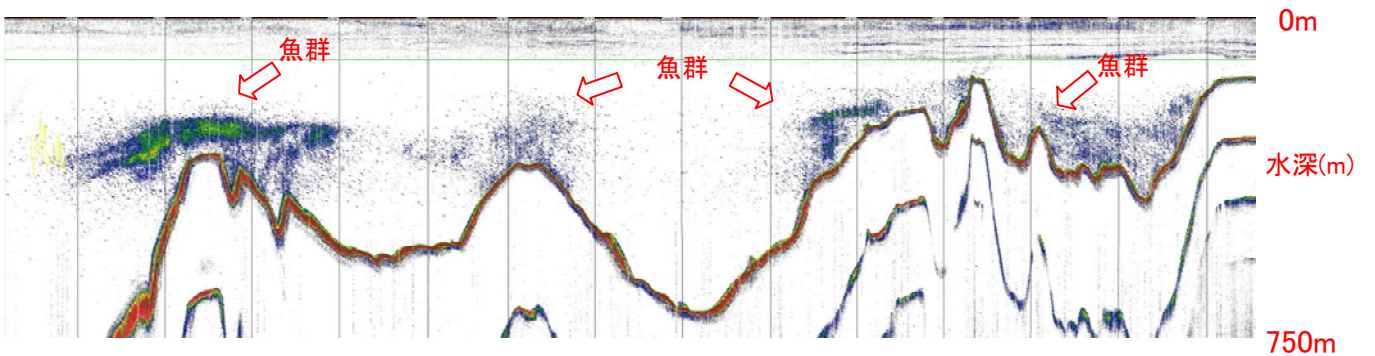
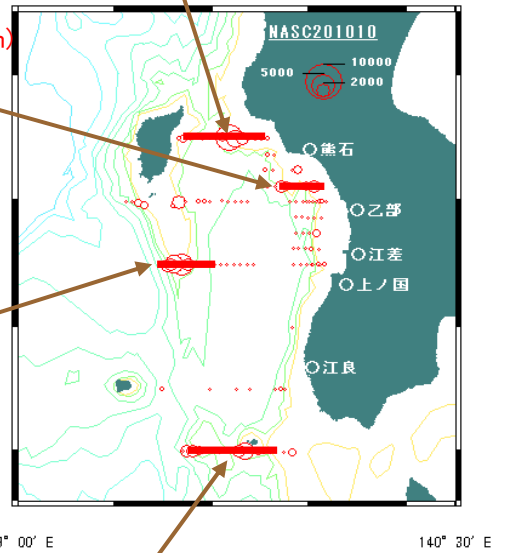
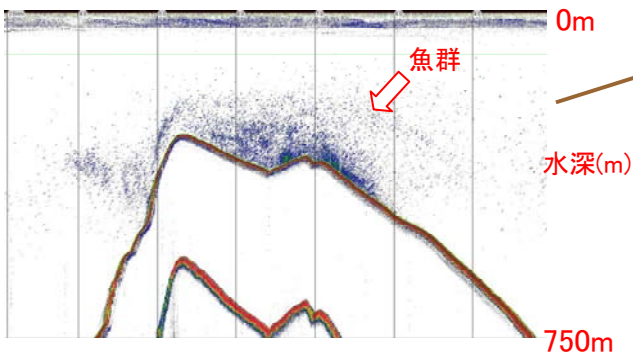
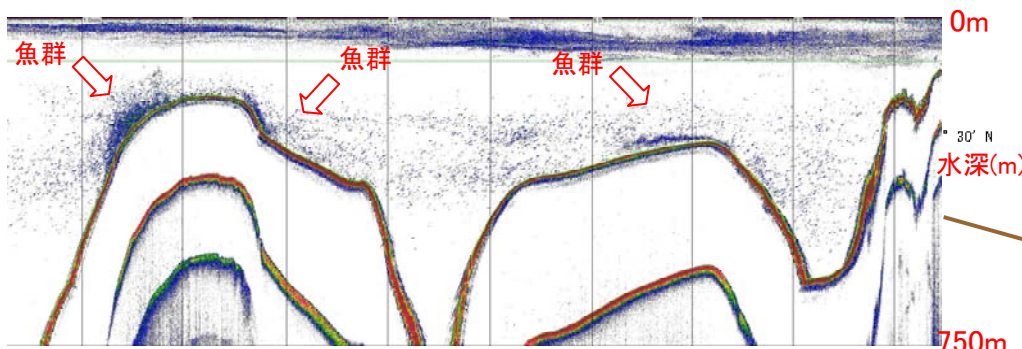
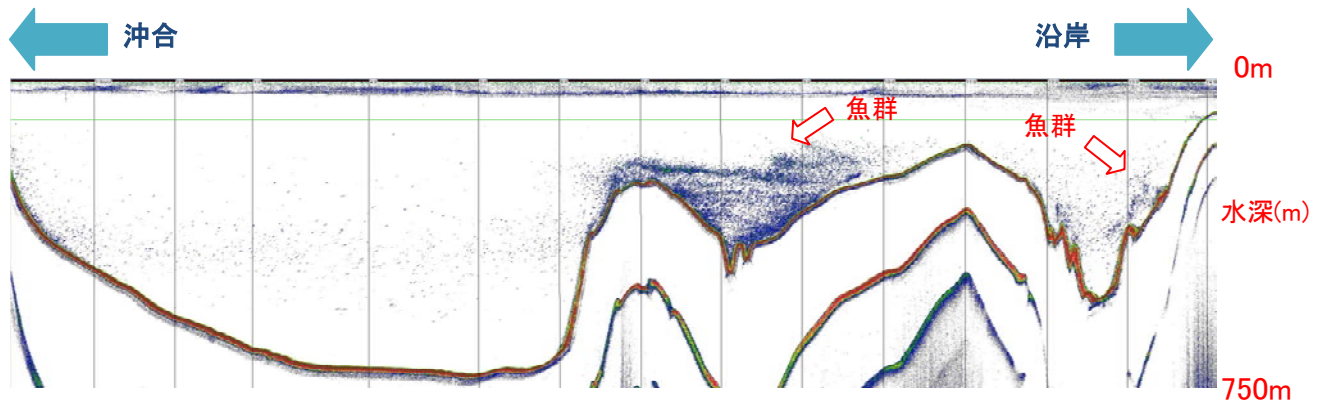


図3 各調査ラインにおける魚群の鉛直分布(夜間に調査を実施)

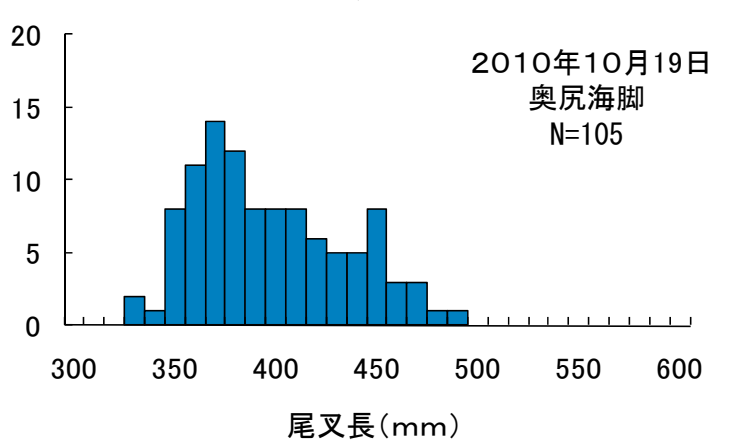
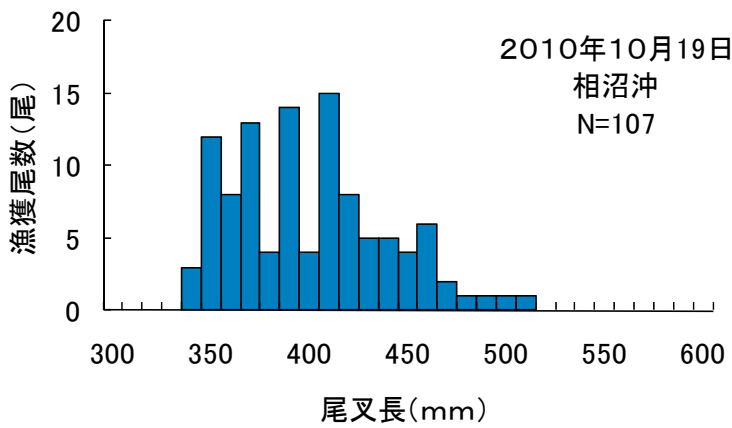
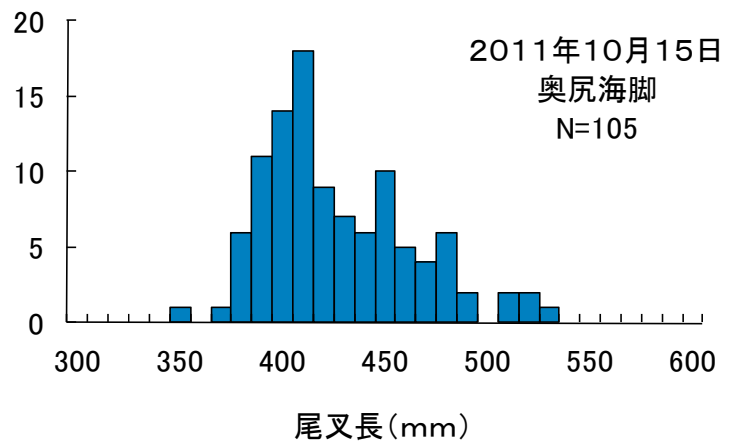
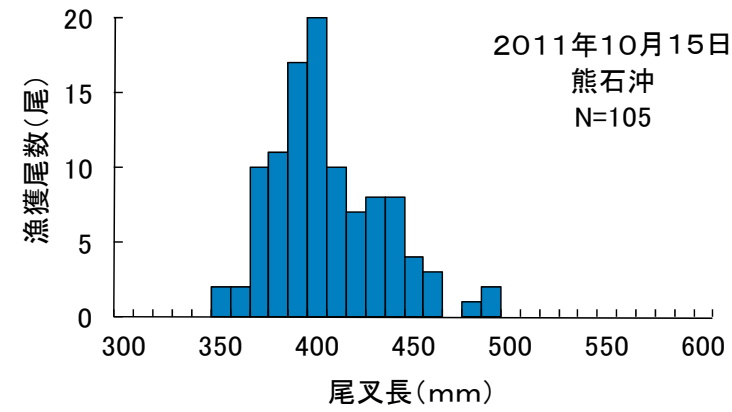


図4 着底トロールで漁獲したスケトウダラの大きさ
 (上：2011年 下：2010年)
 左：熊石沖 (2010年は相沼沖で比較) 右：奥尻海脚

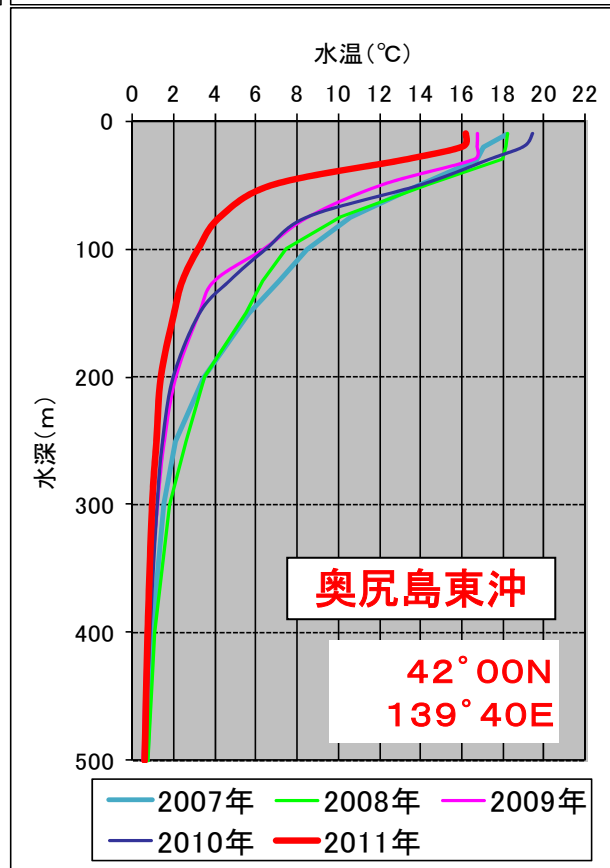
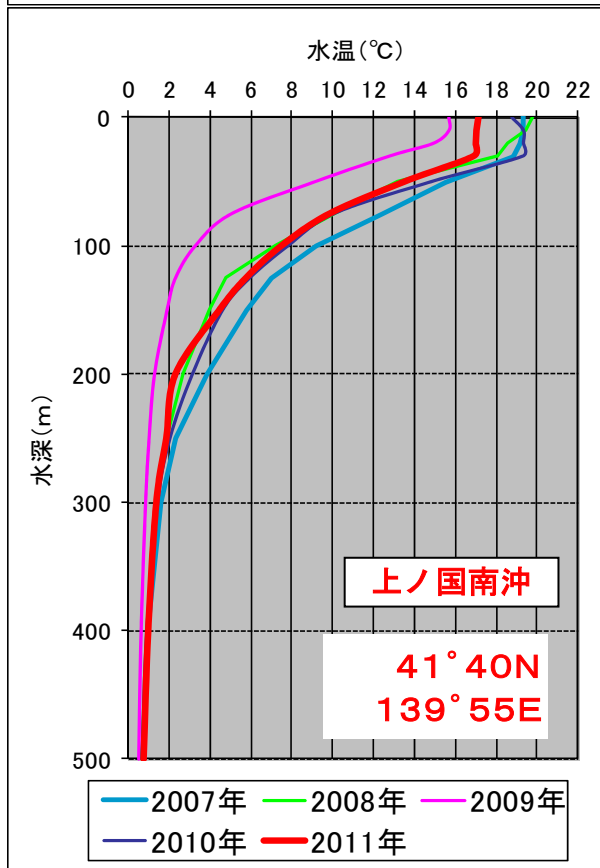
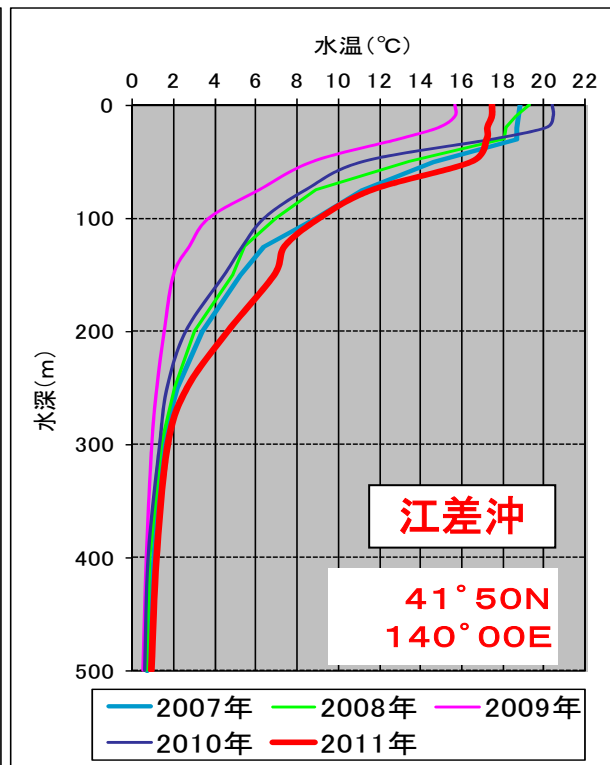
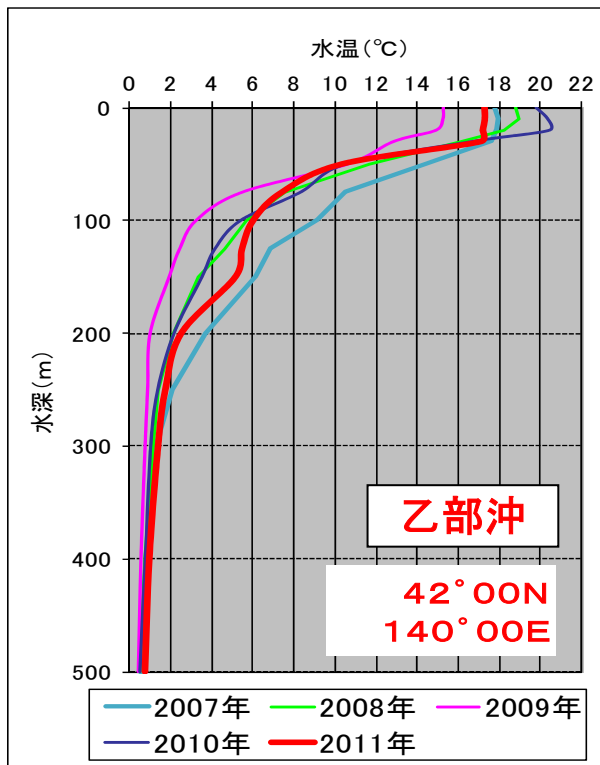


図5 乙部沖(左上), 江差沖(右上),
上ノ国南沖(左下), 奥尻島東沖(右下)
の水温分布